

第65回 東海学生剣道新人優勝大会

第31回 東海女子学生剣道新人優勝大会 要項

| | | | | |
|-------|---|---|---------|--|
| 1. 日 | 時 | 令和4年11月26日（土） | 午前10時開会 | 第65回東海学生剣道新人優勝大会 第31回東海女子学生剣道新人優勝大会 |
| 2. 場 | 所 | OKBぎふ清流アリーナ | | |
| 3. 主 | 催 | 東海学生剣道連盟 | 毎日新聞社 | |
| 4. 後 | 援 | 東海四県剣道連盟 | 東海学連剣友会 | |
| 5. 試 | 合 | 種 目 男女団体試合 | | |
| 6. 参 | 加 | 校 24校（男子22校・女子21校） 愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知工業大学 愛知淑徳大学 愛知学泉大学 岐阜大学 皇學館大学 静岡大学 静岡県立大学 星城大学 中京大学 中部大学 中部学院大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋学院大学 名古屋経済大学 名古屋工業大学 名古屋商科大学 名古屋市立大学 南山大学 三重大学 名城大学 | | |
| 7. 試 | 合 | 方 法 男女団体戦、男子7人制・女子5人制および男子5人制・女子3人制に区分し試合を行う。 男子7人制…トーナメント試合を行う。 男子5人制…3ブロックに分けて予選リーグを行い、各ブロック上位2チームによる決勝トーナメントを行う。 女子5人制…4ブロックに分けて予選リーグを行い、各ブロック上位2チームによる決勝トーナメントを行う。 女子3人制…2ブロックに分けて予選リーグを行い、各ブロック上位2チームによる決勝トーナメントを行う。 ※チームの人数が定員に満たない場合の選手配置について 7人制の場合 五将、三将、次鋒の順に選手を置かないこととする。 5人制の場合 次鋒、副将の順に選手を置かないこととする。 3人制の場合 中堅に選手を置かないこととする。 | | |
| 8. 試 | 合 | 時 間 試合は、男子7人制は4分3本勝負、男女5人制及び女子3人制は予選リーグ3分3本勝負、決勝トーナメント4分3本勝負とし、勝敗が決せざる場合は引き分けとする。 代表者戦は、男女とも任意の選手による4分1本勝負とする。時間内に勝敗の決しない場合は延長戦を3分毎に時間を区切って行う。 | | |
| 9. 出 | 場 | 資 格 出場選手は連盟に個人登録されている者で、1、2年生の者に限る。 1 大学3チームを上限とし、男子7人制・女子5人制への出場は2チームまで、3チーム目は男子5人制・女子3人制へ1チームのみの出場とする。 1チームのみの出場については試合成立人数でのチーム構成であれば出場を認める。 ※1チームを構成できない大学同士で、混成チームを作ることができる。但し、1、2年生登録部員が男子5人以上、女子5人以上の大学は混成チームを作ることを認めない。 以下、東海学生剣道連盟申し合わせ事項による。 | | |
| 10. 試 | 合 | ・ 審 判 規 則 全日本剣道連盟の剣道試合・審判規則、細則、運営要領・新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法および本大会の申し合わせ事項により行う。 1. 試合・審判規則の実施に関して疑義がある場合はその試合者の試合終了までに、監督を通じて審判主任又は審判長に対して異議の申し立てが出来る。 2. 異議の申し立ての権利は監督のみが持ち、監督不在の場合は監督代理者をおくことができる。（監督代理者は事前に本部に届けられている者に限る。） | | |

11. 大会申し合わせ事項

1. 登録について
 - 1) 試合に出場する選手は指定された期日までに所属連盟に選手登録をしなければならない。
 - 2) 不正登録により選手資格を得たものはこれを取り消す。
2. 名札について
 - 1) 大学名及び個人名を記入した正規の名札を着用しない選手は出場できない。
 - 2) 同じ大学に同姓者がいる場合は、苗字の右下に区別できる名前の一字を入れること。尚、上記に違反する選手が発覚した場合は、不正用具使用者として扱い、その試合を負けとし、相手に2本与え、既得本数および既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
3. 竹刀について
 - 1) 竹刀の検査は所定時間内に竹刀検査所において行う。(検査済みシールを貼る。)
 - 2) 竹刀の検査は竹刀に大学名と氏名を明記し一人3本(二刀の場合、大刀・小刀それぞれ3本)まで検査の申請ができる。
 - 3) 規格外竹刀の使用者は、その試合を負けとし、相手に2本与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
4. タビ・サポーター等の使用について
 - 1) タビ・サポーター等の使用は、医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなくかつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。
 - 2) 使用する者は予め使用品をつけた状態で所定の許可書を審判主任に提示し、許可を得ること。使用できるタビ・サポーターは布製のみとする。尚、テーピングの使用については許可書の提出は不要である。
 - 3) 試合開始後新たに必要になった場合は当該試合場の審判主任の許可を得る。
 - 4) タビ・サポーター等を許可なく使用した場合は、不正用具使用者として扱い、その試合を負けとし、相手に2本与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
5. 団体試合でオーダー表通りに出場していない場合
提出されたオーダー表通りに出場していない選手が発覚した場合、その該当する試合を負けとし、相手に2本を与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
6. 剣道具・服装について
 - 1) 面については、肩関節の保護ができる面ぶとんの長さが確保されていること。面紐の長さは、結び目から40cm以内とし、違反者に対しては反則を与えその場で切断する。
面紐の結び目の位置は、目の後方の後頭部中央部分とする。大会中結び目の位置が安全性に支障があると判断した場合は締め直しをする。
 - 2) 小手ぶとんは、前腕の1/2以上を保護しているものとし、えぐり(クリ)の深さは2.5cm以内とする。
 - 3) 剣道着の袖の長さは、自然に構えた状態で、「肘」が完全に隠れて袖口から露出しないものとする。但し、袖が小手ぶとんにかからない程度とする。
 - 4) 頭髪が長い場合は、髪を束ねて、背中が目印にかからないようにする。
 - 5) ミサンガ、パワーバランス等の剣道に必要なものはつけない。
 - 6) 「ポリカーボネイト樹脂積層板装着面」は、全日本剣道連盟が認めたものとする。
 - 7) コロナ対策として、必ず、面マスクを着用する。
また、面シールドを装着する。
(シールドは、下部シールドのみで可。シールド代替の粘着テープ等の使用は不可)
7. 蹲踞について
立ち膝についての蹲踞は認めない。
8. 補水休憩について
延長戦は3分で時間を区切り、延長戦3回目終了の合図で、審判長又は審判主任が主審を呼び、休憩時間を取るよう促す。選手は立ったまま納刀し、面を取り休憩をとる。その間、監督からの指示等は禁止する。5分経過後、審判長又は審判主任の指示により、試合を再開する。

12. 審判員構成

13. 表彰

全日本学生剣道連盟加盟大学卒業生を以て行うことを原則とする。

男子：7人制、5人制、女子：5人制、3人制の優勝、準優勝、第3位(2校)